

「御国の称賛をうける者！！ ～陶器師の手にゆだねよ～」

「この時のために」

エステル4：8-17

■ 小沢征爾

今回、小澤さんの死を通して、もう一度、彼の生き様を見ることができました。音楽家として世界で初めて認められた日本人が小澤征爾さんです。小澤さんの幼少期は満州で非常に苦しい生活をしていました。お母さんが、クリスチャンだったこともあり、毎週教会に通っていたそうです。その後、ピアノを習い徐々にピアノが上達していきピアニストになる夢を抱くようになりました。しかし、彼はラグビーをしている時、指を骨折し、ピアニストになるという夢を断念せざる負えなくなりました。このように自分の進む道が閉ざされた時、彼夢を諦めず、日本人でも世界に認められる音楽家になるんだという思いを信じて人生を歩み、結果、世界で認められる音楽家になりました。私達の人生の中で、進もうとする道が絶たれてしまうそのような出来事があります。そのような時、小澤さんの生き様から私達がどう人生を歩んでいくのかをもう一度再確認できただけではないでしょうか

■ 変貌と變遷

先ほど餌を食べるのに餌い主の合図がでるまで待てない柴犬の動画を観ました。「待て」ができず、どんどん餌に接近していました。私達も神様の前にこのようなことはないでしょうか。私達もこうしたいということがあるとき待つことができません。私達が何かを変えようとするとき、問題が起きたり道が閉ざされるように思える時があるかもしれません。その時は、忍耐せず踏み出すのではなく、まず祈り考えることが大切です。

今年のテーマは変貌と變遷です。私達は変わろうとする時、そこには大きなストレスがかかります。ズレてしまったものに対して真逆に舵を切ることは大変なことです。しかし、私達は良くなると信じて進むことが大切です神様は探しだそうとするものには必ず答えを見出させる方です。みなさんはこのことを信じているでしょうか？

■ エステル記4：8-17

エステル記の中にも自分の悪事を果たそうとする人と神の前で正しく生きようとする人が衝突するストーリーがあります。そのような時、私達はどうかすればよいのでしょうか？

ハマンという人物は王から地位を与えられていました。このハマンが実に悪い奴でした。ハマンは、自分が通るとき、頭を下げることを要求しますが、モルデカイは、ユダヤ人として人間に礼拝を捧げることは断固としてしませんでした。ハマンはモルデカイに憤り、モルデカイを殺そうと計画を立てます。そして、ペルシャ中でユダヤ人を根絶やしにしてよい、という法令を發布するのです。モルデカイは大声でわめきながら荒布をまといて嘆き、エステルに事情を説明します。そして、エステルに、王にあわれみを求めるように懇願しました。

その後、モルデカイはエステルに「あなたはすべてのユダヤ人から離れて王宮にいるから助かるだろうと考えてはならない。もし、あなたがこのような時に沈黙を守るなら、別の所から、助けと救いがユダヤ人のために起ころう。しかしあなたも、あなたの父の家も滅びよう。あなたがこの王国に来たのは、もしかすると、この時のためであるかもしれない。」と伝えます。この言葉がエステルの覚悟を決めさせて、この後のエステルに繋がっていくのです。最終的にはハマンの法令は骨抜きにされ、ユダヤ人が大勝利しハマンは処刑されることになりました。

■ ディークイーストマン

ディークイーストマンさんの名言「私を変えた、最も大切な執り成し手は私の母でした」という言葉があります。その言葉とお母は、彼のことをいつも祈っていました。彼は高校生までずっと犯罪を犯して、将来を否定された子どもでもした。しかし、彼の母は、必ず素晴らしい人材になり人生を変えられるようになると祈り続けました。ある日彼の友達から、盗みの誘いの連絡がきました。この時彼はなぜかわからないけど「俺はもうやめる」と友達の誘いを断りました。そして、その日友達たちは窃盗が見つかり、みんな逮捕されました。この出来事で彼の心に変化が起き、そして、自分はこのままでいいのか？と思うようになりました。そして、なにより友達をなんとかしてあげたいと思うようになり、彼は教会に行くようになりました。神様は、このように誰かが誰かのために祈る時、奇跡を起こす方です。

■ この時のための備えはできているか

①日頃から正しいことを

モルデカイは、ハマンに頭を下げることはしませんでした。それは神様に忠実である為でした。そしてモルデカイは任された任務である門番として、しっかりと仕事行っていました。だからこそ、日々の記録にも残っていたのでした。褒美を求めておらず、受け取ってもいなかったモルデ

カイの行いを王様はその記録を通して知るのでした。こんな偶然があるのでしょうか？

神様はこのようなことをされるお方です。私達もモルデカイのように、小さなことに忠実に生きていきましょう。そういう人は神様から大きなこと（御国の計画）を任されるようになるからです。その為にあらず、小さなこと（自分に任されていること）自分自身を大切にすることです。

②焦らず祈る

モルデカイは神様に忠実な行動（ハマン）に頭を下げなかった。こうように正しい行動をとったにも関わらず罰せられました。しかしモルデカイが最初にとった行動は荒布をまとい神様の前に泣いて祈ったのです。モルデカイは本来は敵国の門番などしたくなかったはずですが、神様に忠実なモルデカイは、神様の声を忠実に守ったのです。私達もしてはならないこと、しなければいけないことがあります。言い換えるなら、私達のしなければならぬ事とは「してはならない事をしない」という事です。このモルデカイのように命がけで諦めず行動することが大切です。

③信じて行動する

神様は罪深い私達に「この時のために」という日エステルのように用意してくださっています。だから私達は、恐れず信じて「この時のために」という目のために日々備えていくことが大切です。

■ ジョアンナフランダーストーマス

彼女は、世界で最も危険と言われていたボルスモア刑務所に目を向け毎日訪問し、囚人に、赦しと和解という福音のメッセージを伝えました。彼女の訪問が始まる前の年、刑務所では受刑者と看守に対する暴力行為が279件記録されていました。彼女が訪問するようになって事件は数件に減りました。ジョアンナの目覚ましい成果はBBC（テレビ局）のプロデューサーの目に留まり、彼女の仕事について1時間のドキュメンタリーを撮影しました。ジョアンナと彼女の夫に会ったとき、『BBCのフィリップキャスターは『いろいろ見ましたがまだ理解できない。囚人たちは怪物……レイプ犯で殺人犯。私が見た限りでは、単に聖書の勉強会を開いたり、ゲームをしたり、祈祷会を開いたりしているだけだった。ボルスモア刑務所に何が起こっていたんだ？』ジョアンナは彼に言いました。「フィリップ、神はすでに刑務所に存在していたのよ。私は見えなかった彼を見えるように紹介しただけ。私達は証者です。たとえ悪人だろうと目の前にいるイエスキリストを紹介するだけで、その人を造り変えることができます。』と。

さいごに

5:3 「心の貧しい者は幸いです。天の御国はその人たちのものだから。

5:4 悲しむ者は幸いです。その人たちは慰められるから。

5:5 柔和な者は幸いです。その人たちは地を受け継ぐから。

5:6 義に飢え渇く者は幸いです。その人たちは満ち足りるから。

5:7 あわれみ深い者は幸いです。その人たちはあわれみを受けるから。

5:8 心のきよい者は幸いです。その人たちは神を見るから。

5:9 平和をつくる者は幸いです。その人たちは神の子どもと呼ばれるから。

5:10 義のために迫害されている者は幸いです。天の御国はその人たちのものだから。

ハクソーリッチという映画の主人公はクリスチャンだったため、軍隊の中でその信仰によって迫害を受けましたが、そんな困難なことがあっても、決して諦めず、キリストの愛の中で和解をし、信仰を貫いていきました。その結果多くの仲間が彼を信頼するようになり、そして沖繩での戦場で本来なら死んでいた兵士を87人も助けました。私達もこれからの人生苦しい事や痛ましいことが起こるかもしれませんが、神の計画はそんな理不尽の中でも少しずつ正しい方へと戻っています。だから今をどう生きるかが問われています。私達は「この時のために」に備えて心揺るがされそうな時や、理不尽に思う時、エステルやモルデカイのように焦らず祈り神様の声に従う者でありたいです。

(要約者:岡本 英樹)

(2024年2月11日)